

■ OnAir 2500 ユーザーレポート

株式会社フジテレビジョン 様

OnAir 2500 -6

報道ナレーション収録用アナブース 1/2 を OnAir 2500 2 式で新設



株式会社フジテレビジョン
技術局 制作技術センター 制作技術部
鹿又 健一

2010年、フジテレビ報道NVシステムが更新され、素材の収録、編集、送出、アーカイブまでを全てファイルによるノンリニアシステムにて運用しています。それに伴い、従来は送出スタジオを間借りするような形で行われていた報道ニュース番組用ナレーション収録の、作業効率とクオリティの向上を図るため、ニュース専用のナレーション収録システムを2式新設することになりました。本システムに必要なコンソールの仕様は以下の観点で検討しており、他のスタジオ設備とは若干異なります。

- ・素材はアナブースのマイク(1本)とボイスオーバー収録時に使用する編集素材のみなのでI/Oは少なくよい。
- ・ニュース番組においてナレーションの占める割合は非常に高いため、マイク1本と言えどもクオリティの高い収録を行いたい。
- ・低価格であること。
- ・アナブースやボイスオーバー用編集卓へのTB機能は必須である。
- ・ボイスオーバー収録に対応するためのモニター切り替え機能が充実している。

・電源の2重化が実現できる。

様々なメーカーのコンソールを調べた結果、フジテレビにおけるSTUDER製品の信頼性やラジオ局等での導入実績からOnAir 2000とOnAir 3000が候補として残ったものの、価格やスペック等を比較するとその中間のグレードが望ましいと思っていました。そんな中でOnAir 2500が発売されるとの情報を得て、一気に採用を決定しました。OnAir 2500はコストを抑えるため(だと思われまます)本体裏にI/Oを備えた一体型システムとなっていますが、今回のシステムではI/Oスペック的には十分でした。そして更にコストダウンを図るためにフェーダーパネルを1枚減らしてフェーダー数が6本の最小システムとしました。素材はアナブース内のマイク1本のみです。他にボイスオーバー収録用のノンリニア編集卓出力を入力していますが、あくまでもモニター用としてなので、素材としては実質1つと言えます。とは言え、このマイクの音質がニュース番組の編集素材全体に与える影響は大きく、例え1本であってももしっかり収録できるシステムを検討する必要があります。OnAirシリーズのHAはVistaシリーズと同等のものを使用しているとのことでしたので音質に関しては全く気になりませんでした。なお、コンソールの出力はAES信号をナレーション収録ガイド用の映像信号とシステム内にてMUXし、HD-SDI信号

として収録サーバにて収録されます。モニターは通常の収録時はナレーションの声のみ、ボイスオーバー時は編集素材と同時にモニターできるように設定しました。TBはアナブース内のナレーター向けとボイスオーバー編集卓向けの2系統で、TBスイッチは外部ボタンと卓本体の両方から行えるように設計しました。運用が開始される前に、各社の担当者を集めてレクチャーを行いました。システムについての説明は必要でしたが、コンソールに関しては初めて使用した方でもほとんどが問題なく使用できていました。これもVistaシリーズから受け継がれているわかりやすいユーザーインターフェースが理由だと思います。

また、今回の新システム導入に合わせて、ニュース番組送出スタジオであるV9スタジオと同じモニタースピーカー(NES mini)を採用しました。これにより、収録時と送出時のモニター環境が揃うため、送出担当者から収録担当者への音質に関するフィードバックを的確に行うことができるようになりました。更に、従来は2つの収録ブースが異なるシステムだったため、例えば長尺の編集素材で、ロール毎に収録ブースが変更した場合、音質に差が生じる問題が発生していました。今回2つの収録ブースを同じシステムに揃えることで、ロール毎の音質の差が生じなくなったと制作スタッフを含めて好評です。